

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11813

研究課題名(和文) 兵士という移動の歴史：パプアニューギニアで連合軍捕虜となった日本人兵の事例から

研究課題名(英文) Soldiers as a subject of mobilities: through the case of Japanese Prisoners of War in Papua New Guinea

研究代表者

小林ハッサル 柔子 (Kobayashi, Yasuko Hassall)

立命館大学・グローバル教養学部・准教授

研究者番号：80793885

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の援助により、環太平洋の近代史を考える際に、南半球と北半球を繋ぐ関係性の歴史を検討することの重要性を指摘することができた。それによって、これまでの北半球中心史観を相対化し、オセアニアとアジア太平洋地域のつながりの重要性について検討する可能性を開いた。その成果は、著書、Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South, Lexington Books として2021年に出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1. 環太平洋の歴史を検討する際に、半球横断的な視点が必要であることを明らかにした。
2. グローバル史は歴史をグローバルな枠組みで検討する傾向がある。しかし、社会史から検討した場合、ローカル、ナショナル、リージョナル、グローバルのそれぞれのレベルがどう交錯し歴史を作るのかというクロス・レベル分析を行う必要性を、国際移動・移民の実証的研究から明らかにした。

研究成果の概要(英文)：With the assistance of this JSPS grant, this project sheds light on the importance of examining transpacific history through various connections between the Southern and Northern hemispheres. By doing so, it also presents a different notion of transpacific history, beyond the familiar notion of it being a matter of Northern Hemisphere-centric connections between the United States and Asian countries. This project thereby allows us to imagine the transpacific space as a more dynamic and multi-faceted world of human mobilities and connections

研究分野：トランスナショナル・ヒストリー

キーワード：Asia and Pacific Transnational History International Migration International Mobilities

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

1 移民・移動研究:パプアニューギニアの捕虜収容所は比較的緩やかな管理で、連合軍側との合意を得ながら捕虜兵士達が自主的に捕虜生活を計画し、生きることが可能であった。この結果、捕虜兵士はオーストラリア人、現地人等の多様な人々が共存していたパプアニューギニア社会で日常生活を営んでいた。こうした捕虜兵士たちの生活史は、日本人兵士が軍国主義や帝国のナショナリズムに支配され、国家や天皇に忠実であり、従って「生きて虜囚の辱を受けず」という戦陣訓どおり、捕虜になることを恥として自決する、という帝国側と連合軍側の双方で形成された兵士像からは説明できないのではないかと。この問いを解くべく、本研究は軍事史としてではなく、社会史として、軍事ナショナリズムに還元することでは説明不可能な捕虜兵士の歴史を、移民研究の視点から兵士を移民のような「移動の主体」として分析することで移動の主体の変容過程を明らかにする。

2 太平洋戦争史:オーストラリアは太平洋戦争に参加し、連合軍南西太平洋地域総司令部(South West Pacific Area GHQ)の所在地であり、日本に関する軍事情報の作成に関して重要な役割を果たした。にも関わらず太平洋戦争史は日本と米国の構図で研究され、南半球を含めた太平洋戦争史とは何か、という問いさえ立てられて来なかった。本研究は、トランス・パシフィック研究の関心を援用し、捕虜兵士の生活史を検討することで、南半球からの太平洋戦争史のピースを提示し、米国のアジア政策を軸とした戦史や戦後史の組み替えへとつながることを企図する。

3 トランス・パシフィック研究:近年米国では、トランス・パシフィック研究が盛んに展開されており、ここで課題とされるのは「新たな北米とアジアというポストコロニアルな二項・二極対立的視点を超えて」研究を発展させられるかである。(Transpacific Studies: Framing an Emerging Field, 2015)。この課題に応えるべく、本研究はオーストラリア、パプアニューギニア、日本という二極関係を越えた半球横断的且つ多極関係性のなかで生きた捕虜兵士の生活史から、「太平洋」という空間・場所が米国対日本という二極関係を越えた、多極的な関係によって作られた場所であることを明らかにする。

2. 研究の目的

1 捕虜兵士の生活史を説明する新たな世界史的視点の提示:第二次世界大戦の歴史を社会史として分析する試みが世界的に展開され、オーストラリアでも軍事史の限界を検討しつつ、文化・経済・社会的な視点から新たなアプローチが模索されている(New Directions in War and History: Debating military history, 2016)。また、近年の研究は、兵士の日常の歴史は軍事ナショナリズムだけでは説明できないことを明らかにした(Writing War: Soldiers record the Japanese Empire, 2013)。本研究は兵士の多様な生活史を分析する世界史的な視点の一つとして、「移民・移動の主体」としての兵士像を提示する。移民研究の最新の理論的動向は、従来の対立構造による説明と主体中心的な視点を融合し、構造的な制約や可能性を個人がどう理解し、行動決定するのかという見方から移民の移動の動機、及び移動後の

社会変容の過程を分析している(Empowering migrant women: why agency and rights are not enough, 2016)。兵士が移動以前・以後の制約、挑戦を踏まえて、新たな場でいかなる主体を立ち上げるのかという視点(兵士=移動主体)から分析することによって、軍事ナショナリズムに還元せず、動的な変容過程を分析することを可能にする。

2 戦争による移動の多様な意味と機能:兵士の心性もまた国民国家と結びつけて理解されることが一般的であり、特に戦場へ赴くという行為は国家・天皇への忠誠心の具現化と理解されてきた。しかし、最近の移動・移民研究から兵士の移動が持つ機能を分析した研究は、戦場への移動が国民国家への忠誠心を強める動きと、その逆に国家を相対化する相反する動きを内包する移動であることを明らかにした(兵士という移動, 2007)。また、アリー(Mobilities, 2007)は、移動が国民国家、エスニシティ、ジェンダーをいかに構築/脱構築するのかを分析することを提唱している。本研究は、アリーの提唱を受け、捕虜兵士の経験した移動が持つ意味の解明を通じて、兵士の移動がどのように国民国家(日本帝国)を構築あるいは脱構築するのかを明らかにする。

3 南半球(Global South)からの視点:大西洋を、非白人の移動によって形成された多様な経路(routes)が書き込まれた空間として捉えることによって(The Black Atlantic: Modernity and double-consciousness, 1993)、白人・北半球中心史観を乗り越えたトランス・アトランティック研究は、歴史、文学、文化、移民研究に大きな影響を与えて来た。この関心は今、太平洋に向けられ、北米ではトランス・パシフィック研究が盛んに展開され、「新たな北米とアジアというポストコロニアルな二項・二極対立的視点を超えて」研究を発展させる必要性が主張されている(Transpacific Studies: Framing an Emerging Field, 2015)。またラテンアメリカのポストコロニアル研究からラテンアメリカからの半球横断的な研究視点が示唆されている(The Geopolitics of Knowledge and the Colonial Difference, 2002)。ポストコロニアルな二項・二極対立に陥らない環太平洋史をいかに実践するかは、今後のグローバルな課題である。一つの可能性として、申請者は、南半球とりわけオーストラリアから展開する太平洋における半球横断的な太平洋戦争史研究の重要性を訴えてきた。本研究は、オーストラリア・パプアニューギニア・日本という多極的・半球横断的關係性に生きた捕虜兵士の歴史を明らかにすることで、トランス・パシフィック研究展開の一視点を実証研究と共に提示する。

4 太平洋戦争史の再検討-捕虜兵士の歴史から:東北アジアにおける捕虜の歴史は共産化する地域で抑留・留用された兵士の歴史である。ロシア軍によってシベリアに抑留され強制労働に従事させられた日本人捕虜は「民主化」の名の下に思想改造教育が行われ、共産主義に賛同しない兵士に対して処罰が実施された。中国の場合は、戦犯管理所に収容された兵士は戦時中の行為を記し、自らの過ちを書き記す自己反省教育が行われた。彼らは帰国後、戦争体験の語り部となり回想録を日本語で残しているが、英語史料による日本人捕虜兵士の経験はこれらの事例とは異なる。捕虜の歴史を包括的に再検討する非共産圏の事例を検討する。

3. 研究の方法

パプアニューギニアで日本人兵士が捕虜となり復員するまで(1942-1946年)を対象とし、

捕虜兵士を移動の主体としてとらえ、多様な他者と関わりながら生きた生活史を英語の史料から明らかにする。

H30 年度:1)理論的研究:本研究は、移動・移民研究、トランス・パシフィック研究、太平洋戦争史の交錯点に位置する。本研究の分析視点をこれらの研究領域で有効なものとなるよう精緻化する。2)一次史料の収集分析:連合軍捕虜になった日本人兵士に関する膨大な史料がオーストラリアに存在することが明らかになっている。その一部に関しては史料の使い方に関するガイド(田中、2000)は存在するが、実際にこの史料を使って行われた研究はまだ存在しない。初年度はオーストラリア戦争記念館に保管されている膨大な量の尋問書(連合軍が捕獲のたびに行った尋問記録の一部:AWM54, 55, 56, 57, 58, 59, 60 等)から、誰がどこで捕獲され、彼らがそれぞれ日本や戦争をどう見ていたのかを明らかにする。米国国立公文書館には尋問の録音史料があるため、それらを併せて調査し、オーストラリアと米国の事例の比較分析を行う。

H31 年度:1)理論研究:史料分析の過程で新たに明らかになった事実を反映させ、理論的な視点を調整・確立し、理論研究を完了させる。2)一次史料の収集分析:1)戦争記念館にあるパプアニューギニアの収容所に暮らした日本人捕虜の記録で、連合軍側が作成した英語史料(AWM82-1)、捕虜兵士が日本語で残した史料(AWM82-2);2)オーストラリア国立公文書館の首都及び各州(シドニー、メルボルン、アデレード、ブリスベン)分館に保存されているパプアニューギニアの日本人捕虜兵士関連の史料;3)オーストラリア国立図書館の *Sissons' Collections*; 4)米国での学会発表に合わせ、米国国立公文書館史料の追加調査。3 国際発信:初年度で得られた成果を国際学会で発表する。

H32 年度:国際発信:前年度 2 年の研究成果をとりまとめ、国際的に権威のあるジャーナル、学会等で発表することに注力する。

4. 研究成果

- 1) アジア太平洋研究としての成果:大西洋の歴史(Trans-Atlantic History)は非常に発展しており、多くの研究者によって研究されている。一方で、太平洋の歴史(Transpacific History)は近年、世界の研究者が精力的に研究を開始した分野である。この分野において、本研究では Transpacific History を理解する際に、従来アジアアメリカと言う水平な関係性の歴史ではなく、アジアとオセアニア地域を結ぶ垂直な関係性を検討する重要性を提示した。
- 2) 国際移動移民研究:国際移動移民研究は従来あまり戦争によって発生する移動を扱ってはこなかった。しかし、この研究では戦争によって引き起こされた国際移民移動を検討する必要性を提示し、国際移民移動研究の分析枠組みを拡大する必要性を提示した。
- 3) 太平洋戦争史:これまで太平洋戦争における捕虜兵士の歴史は、中国やロシアという共産主義国家における事例を中心に検討してきた。このため、捕虜生活中的強制労働や政治的な洗脳ということに重きが置かれてきた。しかし、民主主義国家オーストラリアの管轄のもとでパプアニューギニアに置かれた捕虜たちは、洗脳などが無い生活を送った。この研究では捕虜生活の異なるケースを提示し、戦争捕虜を世界的に検討する視座を提供した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 1件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Nakanishi, Hitomi and Kobayashi, Yasuko Hassall	4. 巻 0
2. 論文標題 Society Matters in Surviving COVID-19	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 http://dx.doi.org.virtual.anu.edu.au/10.2139/ssrn.3635167	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2139/ssrn.3635167.	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 小林ハッサル柔子	4. 巻 502
2. 論文標題 人の移動とパンデミックの世界史から見るグローバル時代のコロナ禍	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KANSAI 空港レビュー	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yasuko Hassall	4. 巻 9/ 2
2. 論文標題 A Form of Imbalance of Power: A Case of Indian Migrant Construction Workers in Singapore	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Diaspora & Cultural Criticism	6. 最初と最後の頁 216-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15519/dcc.2019.07.9.2.216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yasuko Hassall	4. 巻 -
2. 論文標題 Challenges confront Japan 's working visa overhaul	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 East Asian Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, Yasuko Hassall	4. 巻 9/1
2. 論文標題 Crossing the boundaries to survive: Japanese POWs' Experiences through the Allied Interrogation Reports	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Diaspora & Cultural Criticism	6. 最初と最後の頁 6-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15519/dcc.2019.01.9.1.6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林ハッサル柔子	4. 巻 38号
2. 論文標題 21世紀の人文科学系分野がパブリック・ヒストリーから得る示唆	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪大学日本学報	6. 最初と最後の頁 53 - 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, YH	4. 巻 9-1
2. 論文標題 Crossing the boundaries to survive: Japanese POWs' Experiences through the Allied Interrogation Reports	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Diaspora & Cultural Criticism	6. 最初と最後の頁 6-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi, YH	4. 巻 3-1
2. 論文標題 From non-immigrant country to de facto immigrant country: recent shifts in Japanese immigration policy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Paradigm Shift	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 Toward a Society Resilient against Division and Hatred
3. 学会等名 COVID-19 and Hate Speech, International Roundtable, Asia Centre (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 Critical engagement with Mobility Studies by a non-English speaking academia, 2019 Global Mobility Humanities Conference
3. 学会等名 2019 Global Mobility Humanities Conference, Academy of Mobility Humanities, Konkuk University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 Not Just an Enigma: How to Connect Japan with the World beyond Its Specificities through University Education
3. 学会等名 International Conference: Reinventing University History Education: International comparative study on how to adapt nation-state based university history education to globalization (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 WWII and global mobilities: Soldiers as mobile subjects through the ATIS Interrogation Reports
3. 学会等名 the International Convention of Asia Scholars 11 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 WWII and global mobilities: Soldiers as mobile subjects through the ATIS Interrogation Reports
3. 学会等名 Biennial Conference Japanese Studies Association of Australia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, Yasuko Hassall
2. 発表標題 WWII and global mobilities: Soldiers as mobile subjects through the ATIS Interrogation Reports
3. 学会等名 Asian Studies Conference Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 War and knowledge mobilities: The demand for Japanese Language in Australia during the Pacific War
3. 学会等名 The 4th Asian Association of World Historians Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 The Role of Japanese Language in Australia during World War II
3. 学会等名 The Biennial Conference of the Asian Studies Association of Australia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 Crossing the boundaries to survive: Japanese POWs Experiences through ATIS Interrogation Reports
3. 学会等名 Biennial Conference of the Australian Association for Pacific Studies 2018, University of Adelaide (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 War and knowledge mobilities: The demand for Japanese Language in Australia during the Pacific War
3. 学会等名 International Conference: Recent Trends and Humanistic Perspectives in Mobility Studies, (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 War and Mobilities: Japanese POWs Experiences as mobile subjects through ATIS Interrogation Reports
3. 学会等名 cademy of Mobility Humanities colloquium, Academy of Mobility Humanities. Konkuk University (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 Who Owns National History? Some Insights from Australia's Recent History Debate for Japan as a De facto Migration Country
3. 学会等名 International Conference on History Education: How Is History Taught? Local, National, and/or Global Perspectives (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 We need Japanese language command! Flows (mobilities) of knowledge between Japan and Australia during WWII
3. 学会等名 HeKKSaG0n's 6th Japanese-German University Presidents' Conference: East Asia in Global History (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi, YH
2. 発表標題 A critical engagement in the Pacific War history from the Southern Hemisphere
3. 学会等名 Perspectives from the Public and Private Sectors, UCLA Richard C. Rudolph East Asian Library (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 分担 小林ハッサル柔子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 95-109
3. 書名 「グローバル・ヒストリーと文学 より豊かなグローバル・ヒストリーを描くために」『越境する歴史学と世界文学』	

1. 著者名 黒田 勝彦 (著), 小林 ハッサル柔子 (著)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 成山堂書店	5. 総ページ数 258
3. 書名 文明の物流史観	

1. 著者名 Yasuko Hassall Kobayashi & Shinnosuke Takahashi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Lexington Books	5. 総ページ数 420
3. 書名 Transpacific Visions: Connected Histories of the Pacific across North and South	

1. 著者名 分担 小林ハッサル柔子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 308-327
3. 書名 ヘイトに立ち向かう社会的免疫力 - オーストラリアのイスラムフォビアの事例から」清原悠編『レイシズムを考える』共和国	

〔産業財産権〕

〔その他〕

http://research-db.ritsumeai.ac.jp/Profiles/146/0014564/profile.html

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------